

○ 10月19日(木)

小中学校スクールミーティング(向日市立第4向陽小学校) 府立学校視察(府立向日が丘支援学校)



○ 平塚 委員

今回、乙訓教育局管内の向日市立第4向陽小学校と京都府立向日が丘支援学校の視察に出向き、両校ともに50年以上の校史を持たれていることをお聞きしました。

向日市立第4向陽小学校では、近年のスクールミーティングでは体験しなかった「外国語活動」という授業を参観することになりましたが、子どもたちが楽しそうに取り組んでいる様子と個々の語学力には、日々の努力と教職員の御助力があつてのことだと感じました。

京都府立向日が丘支援学校は、「府立向日が丘養護学校」として、長年乙訓地域の肢体不自由児や知的障害のある児童・生徒の教育と社会参加に取り組んでこられました。特に現在は、支援学校を卒業した後の就労確保のため、近隣の企業と連携した接客マナーの研修や福祉施設との交流活動を通じ、個々の自立に向けた教育を積極的に行われ成果を挙げていることは、地域の企業や施設の皆様の温かい御理解と御協力、保護者や学校関係者の皆さん方の努力があつてのことと存じます。また、学校施設の老朽化が見受けられましたので、児童・生徒への安全対策のためにも、早期に改善・改修等を図られるよう願います。

今後も、両校の児童・生徒たちの生活習慣と学習意欲の向上、また支援学校生徒のスムーズな社会参加を図るため、保護者の皆様方や教育に携わる方々の御支援をお願いします。



○ 上原 委員

小学校3年生の外国語活動を見せていただきました。担任と研究主任が協力しながら楽しい雰囲気です。授業を進めていました。小学校には元々なかった教科の外国語(英語)が新たに加わることで、少し不安に感じていましたが、先生方が積極的に研修されており、その研修の成果を授業で見られ安心しました。言葉は話せることが大事であり、外国の方々とコミュニケーションをとるなかでお互いの理解が深まります。先生方の創意工夫で楽しい外国語活動の授業に期待しています。



○ 千 委員

養護学校として開校してから50年が経っています。校舎は些か老朽化しており、特別支援学校としての現在のニーズには不具合が生じているように思えます。

高等部の生徒の小学部の児童への絵本の読み聞かせ、学年の枠を越えた音楽の授業などを楽しく見せていただきました。生徒によるコーヒーやお茶の「おもてなし」は心温まるものでした。スポーツも盛んなようで数々の賞状が飾られていました。

校長先生始め先生方の明るさ、若い先生方の一所懸命さを感じるひとときでした。

本人・学校・企業の努力によって1人でも多くの生徒が社会へ巣立つことを願っています。



○ 安藤 委員

【向日市立第4向陽小学校】

歴史ある文化の街、向日市の小学校で、3年生の外国語活動の様子を拝見いたしました。

「Hello everyone!!」始業のベルと同時にネイティブな英語が流れ始めました。あいさつをかわした後、まずは、体とお口の準備運動。参観するたくさん大人の少し緊張ぎみの子どもたちでしたが、授業の中でも取り入れている手遊び歌が流れだすと、テンポよく体を動かし、軽快なリズムに乗って「Head, Shoulders, Knees and Toes」を大きな声で歌い始めました。次第に口も大きく開いていき、スピードアップするリズムに笑みもこぼれ始めました。

拝見した授業では、児童の身近な食べ物である「果物」をとりあげ、フルーツの名前を発音できることや、好きなものを伝えるための表現に慣れることを目標に、何度も発話した言葉を聞いたり、それを真似たりしながら外国語活動に取り組むものでした。

子どもたちの興味・関心をうまく引き出す担任の表現力や、歌やビンゴ、ゲームなどを用いて集中力を持続させる工夫など、研究主任との息の合った授業展開はとても楽しく、新鮮に映りました。

参観の後の懇談では、全教員が外国語活動を単独で行えるようにすることを見据えた授業研究や英語研修について取り組んでいる様子をつかがうことができました。校内での研修時間にも限りがある中、専門性を活かした人材ばかりに頼らず、年齢や経験、持っている専門性などの枠(垣根)を越えて学ぶ姿、向上心が自然と子ども達に伝わっていて、良い信頼関係ができていないのかと、改めて感じました。

先生方の個々の努力には本当に頭がさがりますが、いつとはなしに子どもの成長に大きな影響を与えているのでしょう。活気あふれる学級の雰囲気や学習環境から、納得のいくとても良い授業を拝見することができました。

小学校の教員は、学級担任制で授業を行います。すべての教科を一人で担わなくてははいけません。外国語や道德の教科化など、先生方の授業づくり、学級づくりに拍車をかける波が、すぐそばまでせまってきています。今回拝見した授業の形(担任主導の外国語活動)は理想ですが、生徒指導、保護者対応に多くの時間を費やす学校などでは研修時間にも限界があり、このような授業スタイルがそのまま生きるかという、疑問も残ります。教員の多忙化を解消するという意味でも、担任の負担を補う人的支援(加配)だけでなく、専門性を持った人材を活かした人事や新規採用(学生の育成)も必要ではないでしょうか。

今後は、中学とのゆるやかな接続についても、交流や連携を深め、より充実した内容になるよう期待しています。



○ 安藤 委員

【向日が丘支援学校】

開校から50年、京都で初めて肢体不自由のある児童を対象とした養護学校として開校した「向日が丘支援学校」を拝見いたしました。

この校舎が建てられてから50年。この間、制度改革や校区改正などがありました。乙訓地域における支援学校として、生徒や保護者の教育ニーズに応える教育、個に応じた適切な指導や必要な支援を行ってこられました。

ちょうど訪問した時期が文化祭の少し前だったのでしょうか。劇台本を使った音楽の授業を拝見することができました。たくさんのお客様に少し照れながらも、大きな声で歌っている姿は、微笑ましくとても楽しそうに感じました。

また、小学部から高等部の生徒が在籍している特徴を活かした「高等部の生徒による読み聞かせ」では、高等部の生徒が教室に来るのをとても楽しみにしている児童たちのワクワクした表情がとても印象的でした。高校生たちも、どんな風に読んだら良いのか工夫したり、児童に問いかけてみたりしながら、一緒に楽しんでいたように思います。

保護者が支援学校を選ぶ一番の理由は、我が子が自立し社会の一員として生きる力をつけることです。学習面や生活面で、一人一人にあったきめ細かい支援があることや個々の能力に応じた指導を支援学校に望んでいます。この支援学校では、より良い学び合いや育ちができるよう、地域と連携した交流活動も取り入れながら、日々の支援・指導に熱心に取り組んでおられ、しっかりと子どもたちに向き合っていることが授業風景や交流活動からも感じ取れました。

子どもたちが学ぶ教室や授業風景を覗きながら、様々な教育設備を拝見しましたが、古いながらも、子どもたちの学びの成長を支える掲示物や興味関心を引き出す工夫がたくさん見受けられました。しかし、50周年を迎えた校舎の老朽化は、寄宿舍棟も含め安全面に欠ける部分がたくさんありました。

この学校は地域における障害や発達に関する教育相談や、学校職員等への研修会の開催など、地域の支援センターの役目も担っています。

今後は、安全面も考えた施設整備を行い、地域に密着した活動を行いながら、子どもたちの可能性を最大限に引き出す教育を続けてほしいと願っています。

高等部生徒による喫茶サービスのおもてなし指導をしていただいた企業の皆様にも感謝申し上げます。